学級担任支援における
特別支援教育コーディネーターの新たな役割

学籍番号　　189962
氏　　名　平山　いづみ
主指導教員　　家近　早苗

１．問題と目的

実習校において担任が授業を実践する中で援助の必要な児童もそうでない児童にとっても、役立つ授業が何か、手立てや構成を考えるのが難しい現状がある。そこで特別支援教育コーディネーター（以下特支 Co）である報告者が、どのような援助をすれば学級担任の授業づくりを助けることができるだろうか。特支 Co の５つの役割を文部科学省が提示しているが、特支 Co が機能していないことや担任支援の内容については具体的に提示していないため、各校の特支 Co の力量に任されていることが多いことが先行研究からも見えていた。そこで、本研究は①学級担任が授業を通してすべての児童にとってわかる授業をつくるために必要な手立てや観点を明らかにすること、②特支 Co として学級経営や授業づくりについて担任支援を行うことを通して③校内における特支 Co の担任支援の役割について新たに提案するという３つを目的に行った。

２．研究の方法

〈研究Ｉ－１〉担任として授業を通してできる子どもへの援助

【目的】援助を必要とする児童もそうでない児童とのどちらの児童にもわかる、役に立つ授業をつくるにはどんな観点が必要か実践し、その手立てや観点を検討する。

【方法】報告者が担任している 1 年生 3 組の児童を対象として手立てを含んだ授業実践を行い、その授業記録や指導案を分析し、児童にとって効果のある授業づくりの観点は何かを整理する。

【結果・考察】わかる授業にするために報告者が行った 6 回の授業で得られた手立ては 108 個であった。この手立てを大きくまとめると①準備の確認、②授業ルール、③具体物の提示、④板書の工夫の４つであった。行った手立ては、主に情報的サポートと道具的サポートとが多かった。児童がどこに困難を示すのかを予測し、どこで声をかけるのか、どう認めるのかといった「情緒的サポート」や、「評価的サポート」が少なかった。

〈研究Ｉ－２〉安定した学級経営のための手立てと観点の整理

【目的】研究Ｉ－１の結果から、すべての児童が学級に適応しやすくするため。授業が分かるための手立てや観点を明らかにする。

【方法】研究Ｉ－1 において報告者が実践した授業の指導案から特別な手立てについて記述したことを整理する。整理したものをもとにチェックリストを作成する。

【結果１】6 回の授業で得られた 108 個の項目を意味内容に沿って分類すると①個別の援助の事前準備、②教材や学習方法の工夫、③学習準備の徹底、④視覚的な情報提示、⑤時間の調整、⑥話を聞かせる工夫、⑦学習スキル習得に向けた指示、⑧児童の実態の把握、⑨フィードバッ

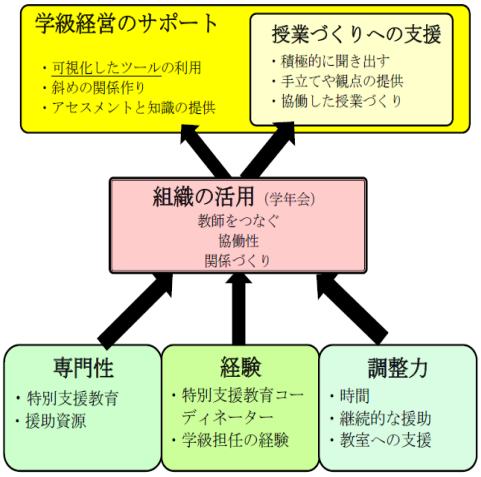
クという 9 つのカテゴリーと 24 個の概念に整理することができた。
【結果 2】結果 1 で得られた 9 つのカテゴリーと 24 個の概念から、学級担任が予防的な観点から授業づくりができるようにチェックリストを作成した。学級担任が授業づくりや改善等に生かすことを目的として、チェックリストの項目を作成した。
【考察】子どもたちがわかる授業を担任が行うために必要な手立ては、①援助ニーズの高い児童個人と学級集団に合わせた事前準備、②子どもの雰囲気を把握し教師が柔軟な対応をすること、③子どものがんばりを認めるフィードバックの 3 点が必要であることがわかった。

〈研究Ⅱ〉学級担任支援における特支 Co の新たな役割

【目的】学級担任がすべての児童に対して役立つ授業が何か手立てを考えながら学級経営や授業ができるように、特支 Co の立場から、学級経営や授業づくりを支援する。
【方法】3 年生の学年会に継続的に参加し、報告者が①学級経営②授業づくりに関してどのような担任支援ができたのか、学年会の記録をもとに事案ごとに内容を整理する。内容については学年会の記録を報告者が文字に起こしたものを基に分析する。
【結果と考察】学級づくりにおける特支 Co の担任支援において報告者は、具体的な提案を含むフィードバックと学年の担任をつなぐ役割をしたことがわかった。予防的な観点からの授業づくりに関しては、積極的に担任の思いを「聞き出す」ことと協働して授業を組み立てることをしたことが実践から見えた。ここから、特支 Co が学級担任を援助するのに必要なことは①学級担任への積極的な関わりと継続的な援助の役割、②特支 Co の学級担任の経験とツールの利用、③特支 Co の校内における調整力であると考えられた。

3．総合考察

本研究の結果、学級担任がすべての子どものことを考えて授業づくりができるために、特支 Co の担任支援の役割に必要な力は何かをまとめると、図 7－1 のように表すことができた。すなわち、まず特支 Co が専門性と経験に基づいたアドバイスができること、そして時間や学年会の場、またどのような援助を提供するのかといった、Co 自身の調整力が大切であると考えた。そして特支 Co が学級経営のサポートをするには可視化されたツールがあること、アセスメントと知識を提供すること、学級担任と同等の関係である「横の関係」だけでなく「斜め上」の関係を作り、担任教師の力を引きだすことが重要である。その上で、授業づくりにおいては担任教師の思いを積極的に聞き出し、サポートをすること、授業の中での手立てや観点を提供することを通して、協働して授業づくりができるのだということが分かった。こうしたサポートを行うために新たにチームを築くのではなく、学年会という校内における既存の組織の中に特支 Co を位置づけて、機能するように他の教師をつなぎ、協働性を高めることで、学級経営や授業づくりの支援を特支 Co が行うことができるのではないかと考えた。



担任支援における特別支援教育コーディネーターの役割